

令和5年5月23日

南の風 For Junior 124

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

先日、久しぶりに中学生のゲーム（横浜市大会）を観戦に行きました。

そのときの感想を書きます。ゲームの流れを戦評風を書くのではなく、対戦していた両チームのオフェンスを中心に書きます。（Aチーム、Bチームとします）

Aチームは5アウトのモーションオフェンス（形として、4アウト1インになることもあった）を原則として、5人のつながりで攻めていました。Bチームは常にトランジションを意識し、ファーストブレイクで攻めることや、個の判断による1on1からアドバンテージ（アウトナンバー）を突くオフェンスでした。

Aチームは、5アウトからペイントにポストフラッシュして合わせ、ディフェンスが中を守ればキックアウトして《場合によってはエキストラして（もう一度パス回しする）》3Pシュートを打つという攻めでした。また、キックアウトのパスにディフェンスがクローズアウトすれば、カウンターでの1on1やクローズアウトによりできたアドバンテージを攻める、といった戦術でした。

Bチームは、エースと思われる選手やフォワードの選手が積極的に1on1のドライブを仕掛け、アドバンテージを作りディフェンスの反応を見て攻める戦術でした。

立ち上がりAチームは、パス回しも素早くポストにもボールが入ります。キックアウトやエキストラパスも回りクローズアウトが作れて、3Pシュートが打てるのですがフィニッシュし切れません。

一方Bチームは、リバウンドからファーストブレイクを出そうとしたり、ドライブからペイントを攻めたりするのですが、パスが通らなかつたりペイント内でヘルプディフェンスに捕まったりして、思うように得点ができません。

ゲームの経過を見ると、Aチームの方がオフェンスを遂行しようとする『強い意志』を感じました。フィニッシュの3Pシュートは決まりませんが、「私たちは、こうやって攻める」という決意が伝わってきました。Bチームは個の力を重視し、ドライブからのシュートや3Pシュートを放つのですが、思うように決まりません。ただリバウンドに飛び込む積極性やルーズボールを諦めない姿は、観ている観客に気持ちが伝わってきました。

第1P、第2Pと進むうちに、ゲームの流れは徐々にAチームに傾きました。キックアウトやポストからのフィードバックの3Pシュートが決まり始めたのです。5アウトや4アウト1インのペイントスペースを取った攻めが有効に機能したのです。Bチームはエースの選手の3Pやリバウンドで打開を図りますが、シュートが単発となり差を詰めることができません。

結局、20点差がついてAチームの勝利となります。

ゲームを観ての感想ですが、Aチームは自チームの5アウトモーションオフェンスをしっかりと遂行した印象でした。南の風でも取り上げた、シュートの期待値を重視しペイント内のシュートと3Pシュートを戦術の核として戦っていました。このオフェンスがすべてのチームに当てはまるかは別として、Aチームのオフェンスは、上の（高校以上）カテゴリーを意識しての戦術であるように感じました。